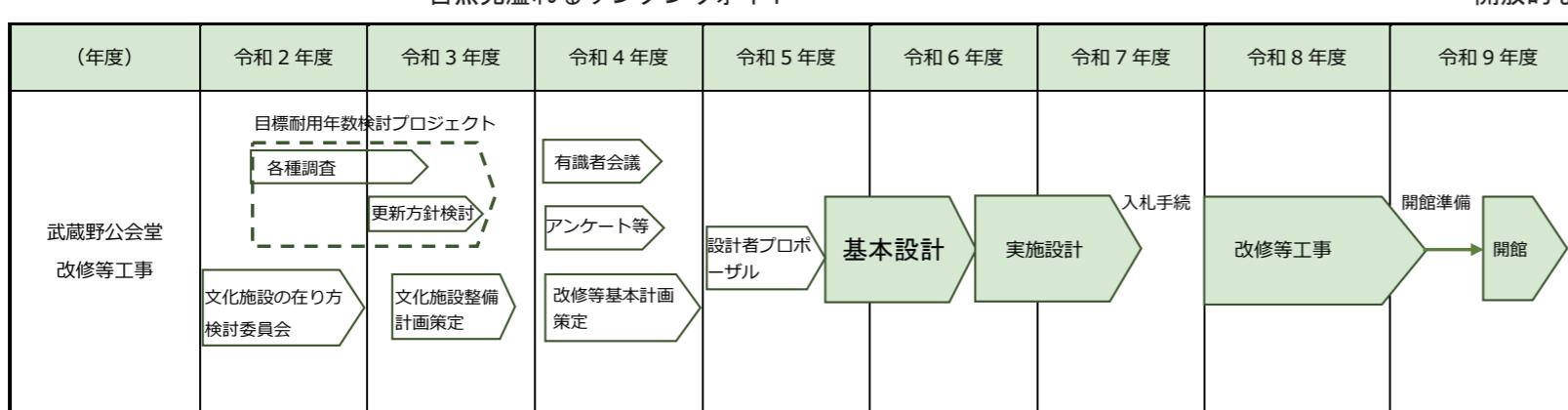


武藏野公会堂改修等工事基本設計案（概要版）

令和6年7月
武藏野市



●建物概要

- 主要用途 : 公会堂または集会場
- 構造種別 : RC造+鉄骨造
- 階数 : 地下1階／地上5階／塔屋1階
- 敷地面積 : 1,873.79 m²
- 建築面積 : 約1,305.0 m²
- 延床面積 : 約2,494.0 m²
- 各階床面積 : 塔屋約17.5 m²
5階 約60.0 m²
4階 約75.0 m²
3階 約76.0 m²
2階 約158.0 m²
1階 約800.0 m²
地下階 約1,290.0 m²
ピット階約17.5 m²
- 建蔽率 : 69%
- 容積率 : 133%
- 最高高さ : 18.075 m

※実施設計、まちづくり条例等の協議において変更になる場合があります。

●概算工事費

- 施設工事費 約26億円（税込）

※建築工事（減築・増築を含む）及び電気・機械・舞台の設備工事の費用

※工事費は現段階における概算額であり、今後の実施設計の内容や入札時の建設コスト等により変動する可能性があります。詳細の工事費は、実施設計段階において各種仕様の優先度を見極めながら精査します。

●スケジュール(予定)

内容	時期
基本設計	令和5年12月～6年9月
実施設計、建築確認申請	令和6年10月～7年9月
入札手続、議会審議、契約	令和7年10月～8年3月
改修工事	令和8年4月～9年7月
開館準備	令和9年7月～10月
開館	令和9年11月

基本設計の経緯について

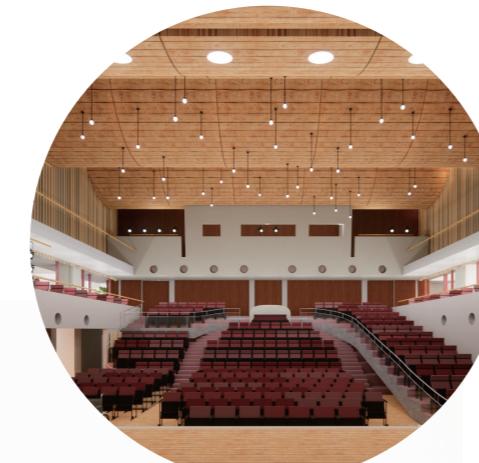
武蔵野公会堂は1964年の開館から60年が経過し、設備の老朽化などから建物の更新時期を迎えていました。これまで、建物・設備に関する各種調査結果に基づき、延命化と全面建替えの比較検討を行い、有識者会議や市民アンケート、パブリックコメント等の意見を踏まえ、令和4年度に武蔵野公会堂改修等基本計画を策定しました。同計画では、以下の基本的な考え方とともに、施設のコンセプトや改修方針、主な改修事項等を示しています。

- ・ホール棟はコンクリートや耐震性能に問題なく、改修等（増築・減築を含む改修）で多様な用途に対応可能となる。
- ・全面建替えの場合は、築60～80年程度使用可能な施設として建設することとなり、多岐にわたる検討・調整を行うため建設までの期間が長期に及ぶ。すでに給排水等の設備の劣化が急がれる現状を鑑みると、建替えまでの期間の施設運営の継続が難しくなる事態が考えられる。
- ・全面建替えの場合は、多様な主体が連携してビジョンを描く吉祥寺駅南口の将来の面的整備の可能性に制約を与えることにもなる。また面的整備を想定して使用期間を20年程度とする場合には費用対効果の課題が大きい。
- ・これらを踏まえ、改修等により築80年程度までの利用を目指して延命化を図ることとする。

この基本計画に基づき、令和5年度に公募型プロポーザルにより設計者の選定を行い、基本設計の検討を進め、このたび基本設計の案を取りまとめました。



アウターリビング



むさしの木立ホール



南西角からの鳥瞰



パープル通り



縁側ラウンジ

新しさと懐かしさを受け入れるゲートとしての新武蔵野公会堂

1 市民の芸術文化を支える創造・発信する武蔵野型改修建築

本施設は、吉祥寺地域のみならず武蔵野市における市民の芸術文化活動を支える重要な文化施設です。

本改修では文化施設としての芸術文化の創造・発信の機能を拡充し、若者世代を含め幅広い世代の多様な芸術文化活動や新しい表現の試みを可能にする施設を目指します。また、現施設の辿ってきた60年の歴史を受け止めた「時」を紡ぐ改修により、形を変えて生き続ける建築とします。

多様な演目に対応できるよう既存ホールを過不足なく機能拡充した上で、減築、増築、改修によって新たに生まれた気軽に芸術に出会える居場所を散りばめました。

単に残すだけでも壊すだけでもない、懐かしくも新しい価値を持ったゲートとしての建築とします。



雑木林テラス



南東角からの鳥瞰



サンクンヴォイド



クロスギャラリー



サンクンシアター

新しさと懐かしさを受け入れるゲートとしての新武蔵野公会堂

2 誰もが安全安心に利用できる施設

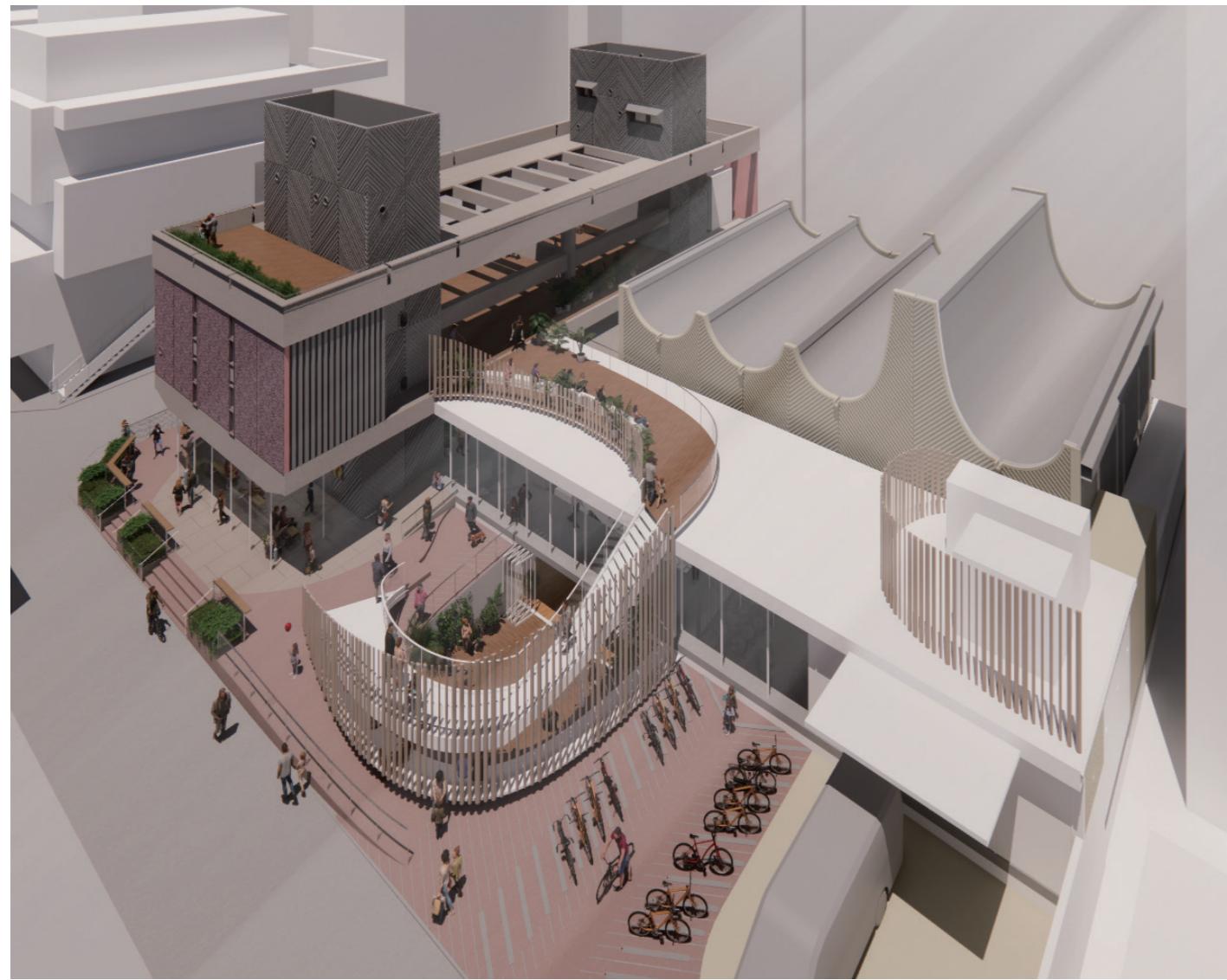
安全で誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインに配慮した使いやすく快適な施設を計画します。

すべての利用者が安全・円滑・快適に回遊・散策できる経路を設計します。既存建物はエレベーターが無く、階段のみでの昇降でしたが、一般エレベーターと大型搬入エレベーターを新設し、各所段差についてはスロープを設置するなど、段差解消を徹底します。また、極力行き止まりのない計画とし、回遊性のある計画とします。階段踊り場にあるトイレは、各階の床に設置するなどバリアフリーを徹底します。また、親子室として使える多目的室の設置やホール客席内の車椅子席も視認性を改善して複数確保したインクルーシブなホールを目指します。

老朽化の著しい設備については、故障・事故等の予防のため、適切に改修・更新します。

本施設は災害時の帰宅困難者の一時滞在施設に位置付けられているため、法令の基準以上の市の設定基準を満たせるよう減築により耐震性能を高めることで、安全で誰もが安心して利用できる施設とします。

また、既存施設の課題である有料ゾーンと無料ゾーンの明快な区分を可能としながらも、一体利用を両立する室配置を行います。観客・演者の動線の明快な分離が可能な計画とし、安全な搬入経路も確保します。



鳥瞰イメージ

3 まちとつながり、気軽に立ち寄れる空間

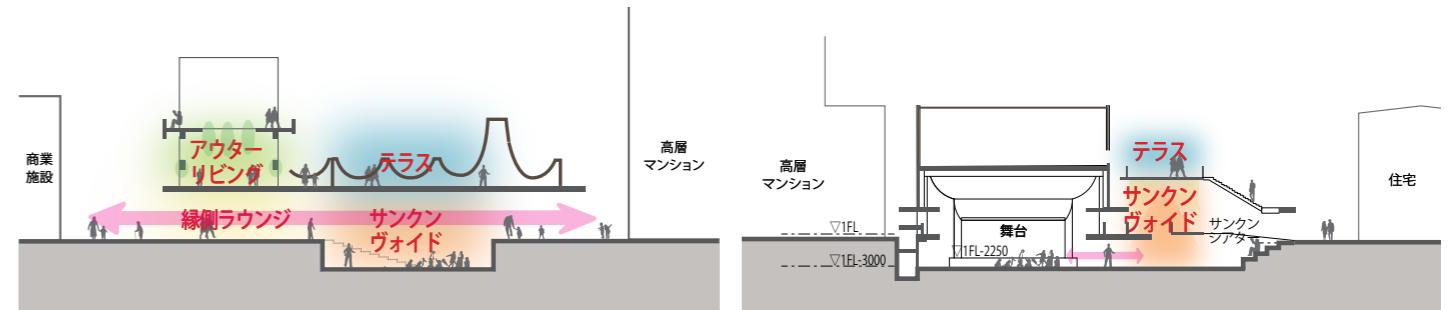
武蔵野公会堂は商業地域に位置しますが、道路を挟んだ南側には低層住宅地が広がり、また吉祥寺駅南口から都立井の頭恩賜公園に至る経路上にあるため、改修にあたっては、まちの魅力をさらに高めていく視点を大切にします。周囲のまちとつながり、まちの活気を生み出すとともに、将来の周辺エリアの姿を見据え、市民・利用者・来街者に広く親しまれる施設を目指します。

機能拡充とともに既存建築を極力有効活用することで、今の面影を残しながら、新しい価値をつくり出し、これからも愛される「生きた建築」とします。

井の頭公園には芸能の神、弁財天が祀られており、かつての参道入り口には、甲州街道から人々を受け入れていた「黒門」が今でも残っています。

「七井橋通り」は商業の賑わいがある一方、「パープル通り」は、住宅街との境にあり落ち着いた通りです。また唯一スロープで公園へ降りられるバリアフリーな通りもあります。パープル通りの由来となった、武蔵野公会堂の紫の外壁を残し、文化の香りが漂う、多世代の人々が安心して、気軽に立ち寄れる新しいゲートとしての建築を計画します。

また、住宅地側は、ルーバーの設置や、来館者の視線を考慮した動線計画など、住環境に配慮した計画とします。



縁側ラウンジから段差なく到達できるサンクンヴォイド

武蔵野型改修建築 ~時を紡ぐ改修・形を変えて生き続ける建築~ の基本設計方針

1 安全性と機能性を確保しコストバランスに配慮した改修等工事

20年程度と設定した耐用年数を踏まえ、安全性の確保や機能性を重視し、コストバランスに配慮した改修とします。

現会議室棟については耐震壁等の追加等ではなく、スラブや外壁リブコンパネルを撤去し大幅に建物を軽量化することで、 I_s 値を大幅に改善します。また、解体範囲をむやみに増やさない計画とし、解体費の低減に配慮するとともに、工期短縮にも繋がる計画とします。

新設部の地下はRC、上部構造を軽量で経済的なブリースト付鉄骨造とします。

全て壊さず外部化することでメンテナンスを軽減、空調負荷をゼロにし、ランニングコストの低減につながります。また、都市の風の道を作ることで、ヒートアイランド対策等の環境に寄り添った計画とします。



2 多世代で集える多様な活動・新しい表現が可能なホール・諸室計画

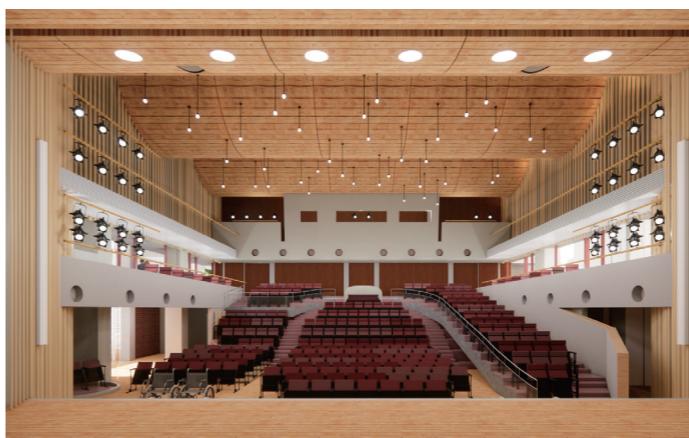
ホール舞台周りの現状の課題を踏まえ、舞台奥行の拡幅や、舞台裏の環境改善により演者のニーズに応えるほか、天井、壁面の遮音性能の向上を図ることで、利用者ニーズに配慮した計画とします。既存建築設計者の工夫が施されたホールの既存のデザインを活かし、経年劣化等によるひび割れなどの劣化補修を行うことを優先して、更新箇所の優先度を見定めることにより、コストバランスに配慮した計画とします。

従来ニーズの高い音楽利用を意識しながら、演劇・舞蹈系や講演会等にも対応する多機能ホールとします。また、市民ユースが多いことを想定し、舞台・客席・舞台特殊設備が使いやすく、安全なホールとします。舞台機構はオール電動化し、ニーズに合わせた使いやすく、安心安全な舞台機構計画とします。舞台照明はオールLED化することで、ランニングコストと環境に配慮した計画とし、舞台音響は、武蔵野の雑木林の木立をイメージした音響拡散縦ルーバーに調和する最適な拡声設備を計画します。また、遮音上の最大の弱点である側面ガラス建具を多重化することで遮音、遮光、音響を大幅に改善し、武蔵野公会堂の特徴である街に開かれたホールを真に実現します。音響反射庇と空調ダクトを兼ねた照明投光デッキを増設します。

全体を通してコストパフォーマンスの高い客席・舞台設備・空調計画を行います。

新たに発見した竣工時1964年の平土間／段床と現況の段床を組み合わせた、新しく懐かしい客席計画とします。

鑑賞はもちろん、市民参加型の、創造活動の場とするため、舞台、リハーサル・練習室、楽屋、ロビーを全て同一フロアとし、市民の鑑賞、練習、創造、発表が繋がる文化のサイクルを促します。全館を通して一体利用・同時個別利用が可能な諸室配置を行います。遮音に有利な地下に諸室を集約します。搬入屋内化で夜間撤収時の騒音にも配慮します。



3 市民の創造活動の幅を広げる街のヴォイド (※)

現施設には入口付近等に閉鎖的な雰囲気があり、まちとのつながりが弱いという課題を改善するため、まちに開き、つながるための空間の創出を目指した改修を行います。敷地内緑化を行うことにより、利用者だけではなく来街者も気軽に立ち寄りたくなる外構計画とします。

高密度の街中に、創造活動のヴォイドをつくり、多様な属性の人々が気軽に訪れ、交わる3つの居場所をつくります。具体的には、ホール棟と新設部との間に「サンクンヴォイド」、開放的な1階のパブリックスペースに「縁側ラウンジ」、会議室棟の減築空間に「アウターリビング」を配置し、多様な世代が憩える居場所を提供し、文化に触れ合う機会を創出するとともに、街へひらく計画とします。ここでは有料ゾーンを利用しない市民・来街者も気軽に立ち寄れる居場所を提供します。また、通り側から視認・アクセスできる部分を積極的に緑化します。

※街のヴォイド：ヴォイドとは、吹き抜けや余白を意味し、

街におけるヴォイドとは、機能だけに縛られない気軽に過ごせる開放的な空間を意味する。

配置図 兼 1階平面図

● つながる縁側ラウンジ

パープル通り沿いに誰でも気軽に入りやすい、オープンな居場所空間を設けます。内外連続利用が可能な建具により、街と人々の様々なつながりを生みます。またこの場所は情報発信拠点にもなります。



● サンクンヴォイド

1階に設けられたヴォイドを通して明るい自然光を地下1階に届けます。



● 諸室6(クロスギャラリー)

敷地接道部二面の間にできる南西の角にはカフェやギャラリーを配置可能な諸室6を設計します。来館者を迎えるながら文化を発信する場となります。



Scale (A3) = 1/300

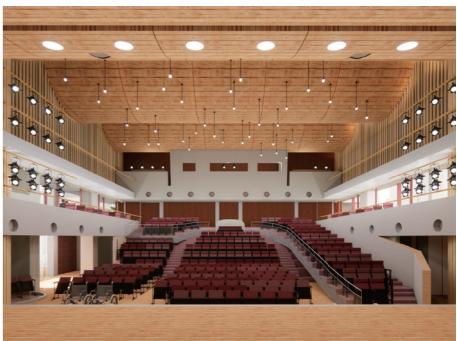
■ 既存部分
■ 増築・改修部分

● ガラス建具の多重化

1階ホール側面のガラス建具を多重化することで遮音/音響/遮光を大幅に改善し、街に開かれたホールを真に実現します。

● 新旧の段床が交わる客席

竣工当時の平土間・段床と現況の段床を組み合わせて客席を計画します。



● 大型搬入エレベーター

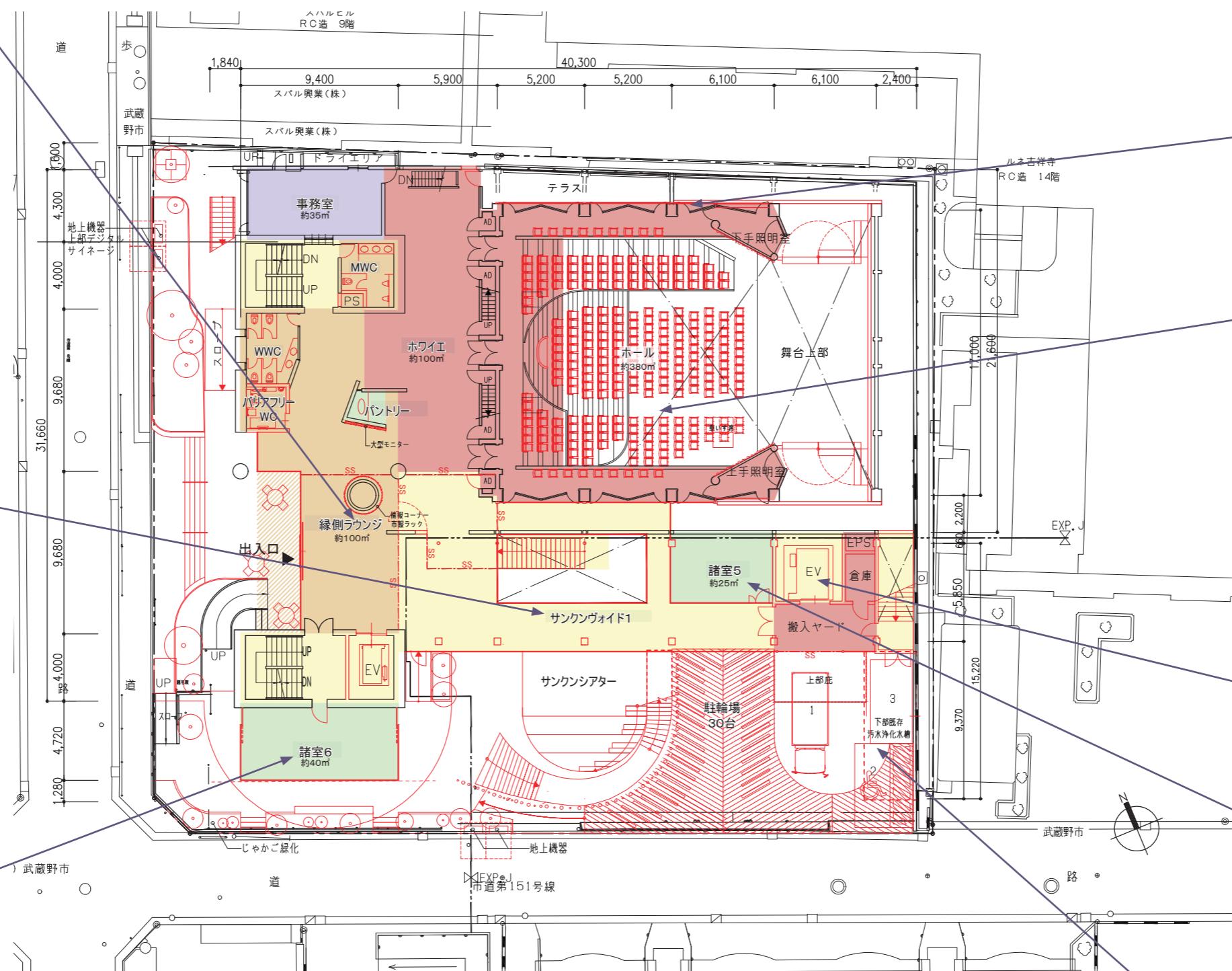
搬入効率が高い2方向エレベーターを設置。2層3停とすることでコストを低減しながら利便性を向上させます。

● 楽屋利用可能な諸室5

会議室用途としても楽屋用途としても使用可能な部屋。舞台につながる裏動線を確保します。中の活動がうかがえるガラス張りの開放的な部屋とすることで、圧迫感を軽減しながらサンクンヴォイドの風景の一部となります。

● 附置義務駐車場

附置義務を満たす搬入用・身障者用・業務用3台を想定した駐車スペースを確保します。



地下階 平面図

● 一体利用可能な諸室3と諸室4

可動間仕切り設けることで、独立した2室としても、大面積の一室としても利用可能にします。また、防音設備を整備することで、会議室の用途に加え、リハーサル室としても使用できます。

● 見せるピアノ庫

保管時も外部からピアノを鑑賞できる透明性の高いピアノ庫を計画します。



● 緩やかなスロープ

階差部分にスロープを設置し、完全バリアフリー化を実現します。

● バリアフリーエレベーター

車椅子で不自由なく出入りできるサイズのエレベーターを配置します。一般用エレベーターはストレッチャーを運搬可能とします。

● サンクンシアター

南面に隣接する住宅地のプライバシーに配慮して道路から下がった屋外広場を計画します。サンクンシアターからの採光により明るい地下1階を整備します。



● 緩やかなスロープ

階差部分にスロープを設置し、完全バリアフリー化を実現します。

Scale (A3) = 1/300

■ 既存部分
■ 増築・改修部分

● 丸太半割音響調整ルーバー

やわらかい反射音を得るために、武蔵野の雑木林をイメージした大小様々なサイズの半割丸木ルーバーを配置します。そうすることで森林の音場をモチーフにした音の広がりを感じられる音響空間の視覚と聴覚を一体化します。重苦しい既存RCプロセニアムアーチに温かみと軽やかさを付加します。



● 舞台の拡張と舞台裏通路

楽屋移設することで平面を確保し、舞台の拡張と舞台裏通路の確保を行います。

● 車椅子席の移設

見やすい位置に車椅子席を移動することによって車椅子利用者の鑑賞体験を改善します。

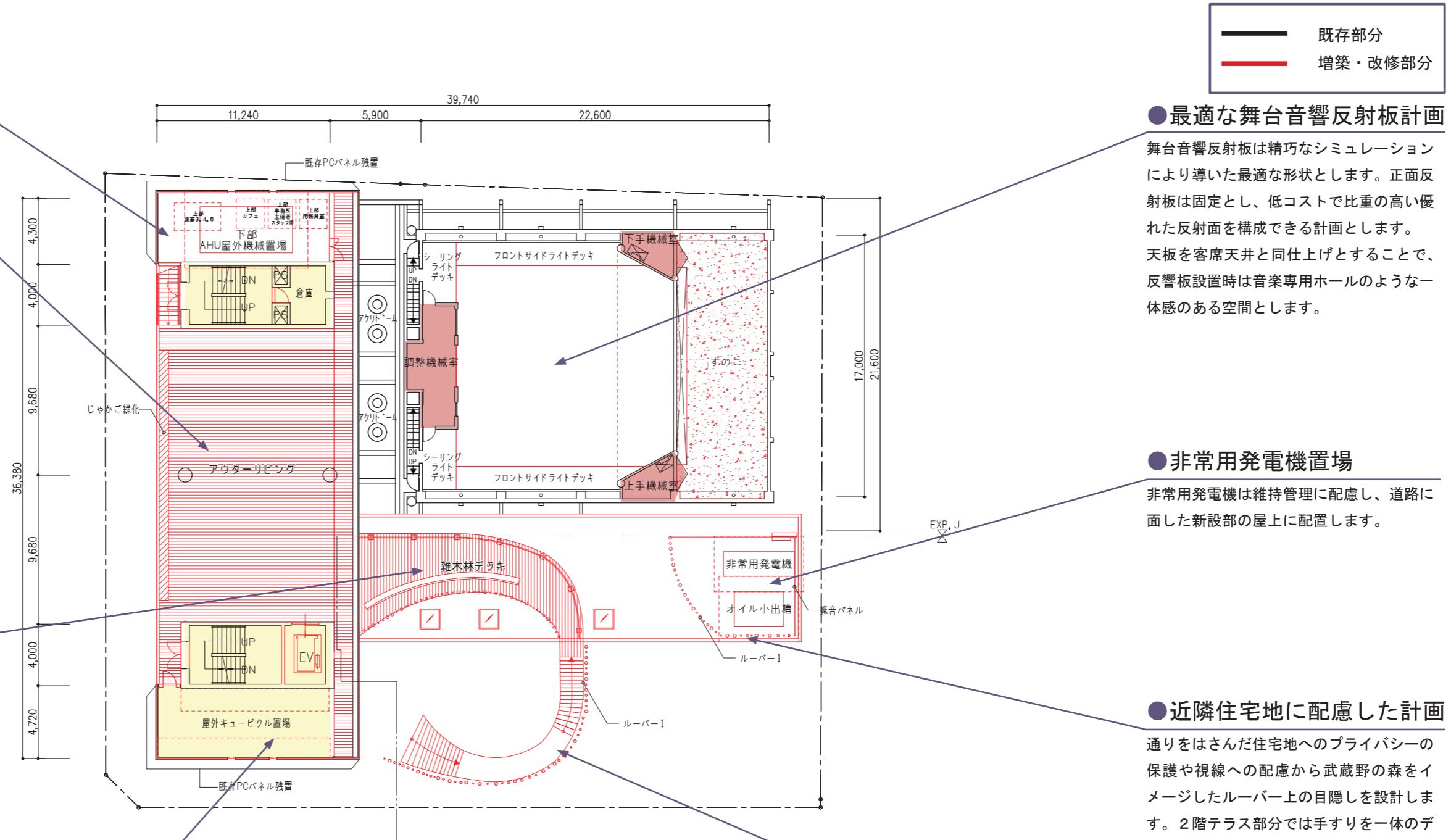
● 多目的室の新設

多目的室を新設します。防音性能を確保することで、小さな子連れの方も気兼ねなく利用できる親子室としての利用を可能にします。



● 利便性の高い楽屋

楽屋としての設えを優先した諸室1（常設化粧前+ロールスクリーン）と活動室利用を優先した諸室2（前面鏡張り+移動机）を計画し、スタッフや楽屋利用者の機能転換労力に配慮しながら、活動室の利用率の向上を促進します。



●ホール空調機置場

ホール空調機は効率的な配管ルートに配慮し会議室棟2階（屋上）に配置します。

●アウターリビング

様々なシーンに応じてフレキシブルに使える市民屋外リビングです。減築により会議室棟を軽量化する一方で、残置する梁により日よけやキャットウォーク等の機能を補完します。都市の風の道を作ることで、ヒートアイランド対策等の環境に寄り添った計画とします。



● 雜木林テラス

むさしの木立ホールとつながる、武蔵野の雑木林をイメージしたルーバーを配置します。特徴的な既存ホール棟の屋根を眺めることのできる、少し囲われた落ち葉のある外部空間です



●受電設備置場

既存外壁を目隠しとして活用します。

●最適な舞台音響反射板計画

舞台音響反射板は精巧なシミュレーションにより導いた最適な形状とします。正面反射板は固定とし、低コストで比重の高い優れた反射面を構成できる計画とします。天板を客席天井と同仕上げとすることで、反響板設置時は音楽専用ホールのような一体感のある空間とします。

●非常用発電機置場

非常用発電機は維持管理に配慮し、道路に面した新設部の屋上に配置します。

●近隣住宅地に配慮した計画

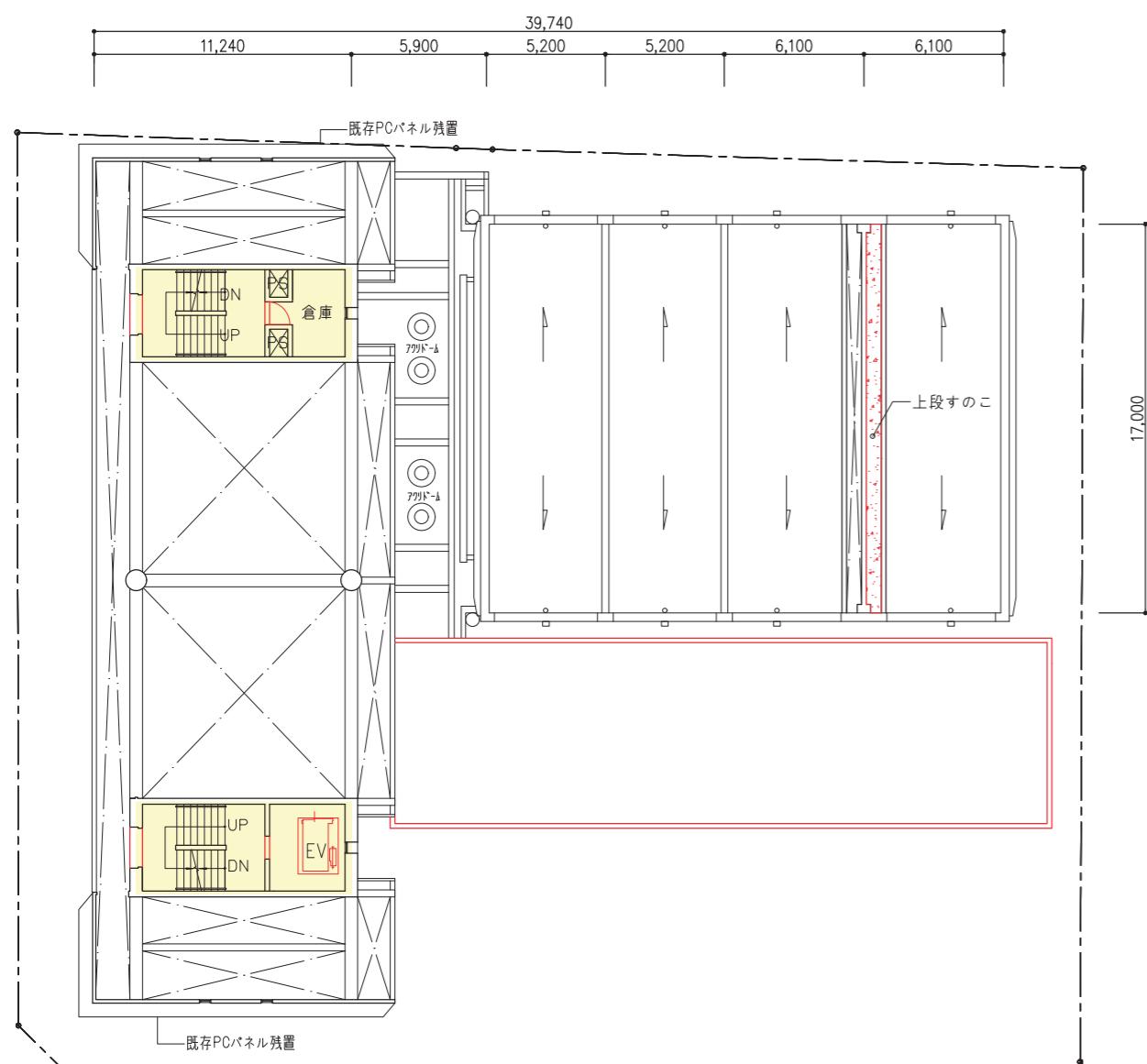
通りをはさんだ住宅地へのプライバシーの保護や視線への配慮から武蔵野の森をイメージしたルーバー上の目隠しを設計します。2階テラス部分では手すりを一体のデザインで計画します。

● 動線の可視化

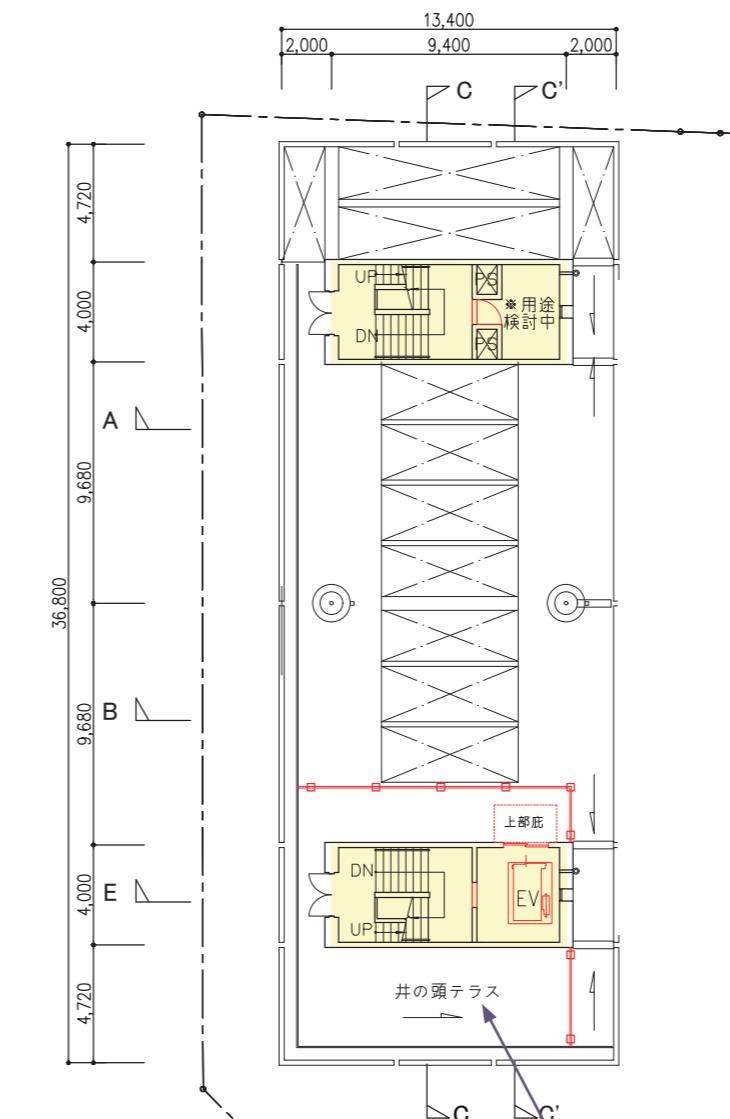
既存の動線に付加した新たな動線を外部に巻きつけることで公会堂の活動を可視化します。また、1階の建具を閉めることでサンクンガーデン、階段、テラス、及びアウターリビングからなる外部空間を施錠可能にします。

3階・4階・5階 平面図

Scale (A3) = 1/300



3階平面図



4階平面図

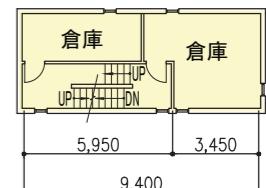


●井の頭テラス

一般に開放されていない屋上に居場所空間を作ります。井の頭公園を望むことのできるテラスです。

■既存部分
■増築・改修部分

13,400
2,000 9,400 2,000

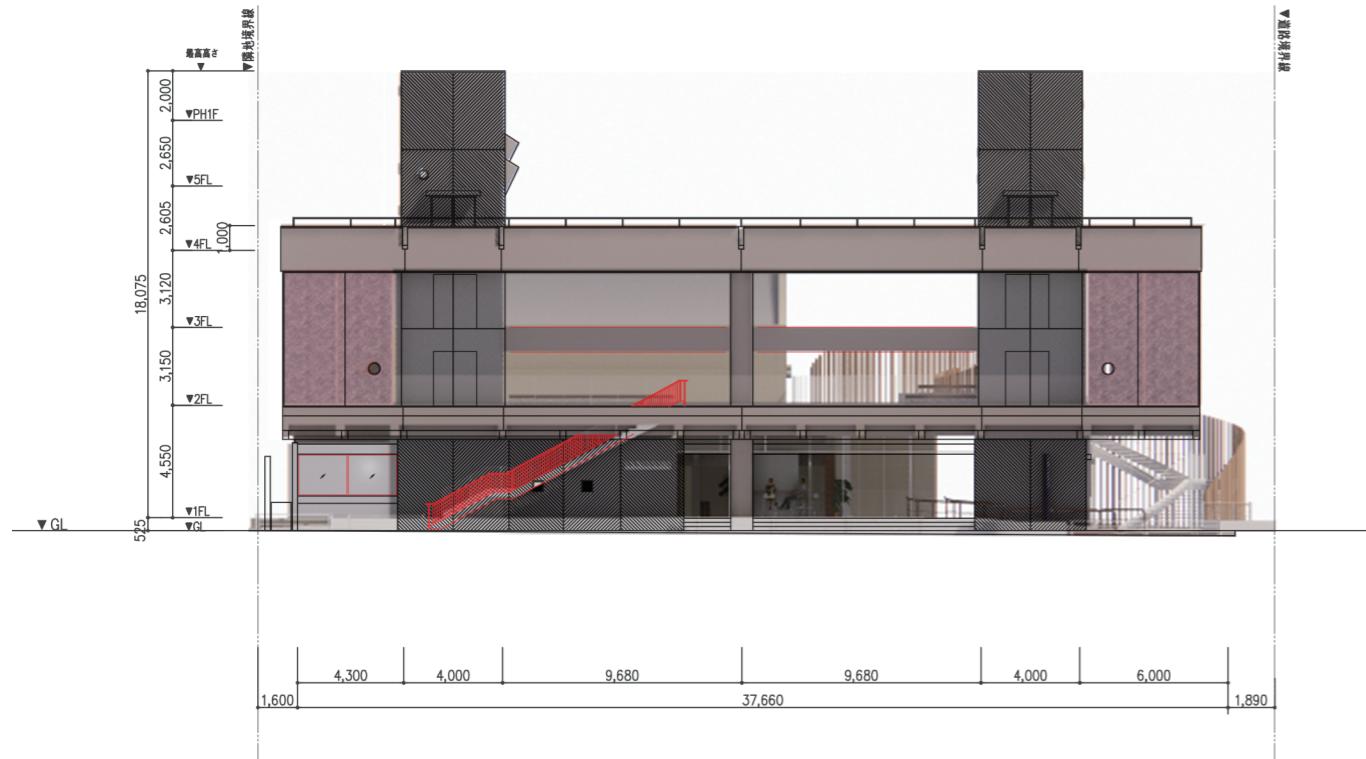


5階平面図

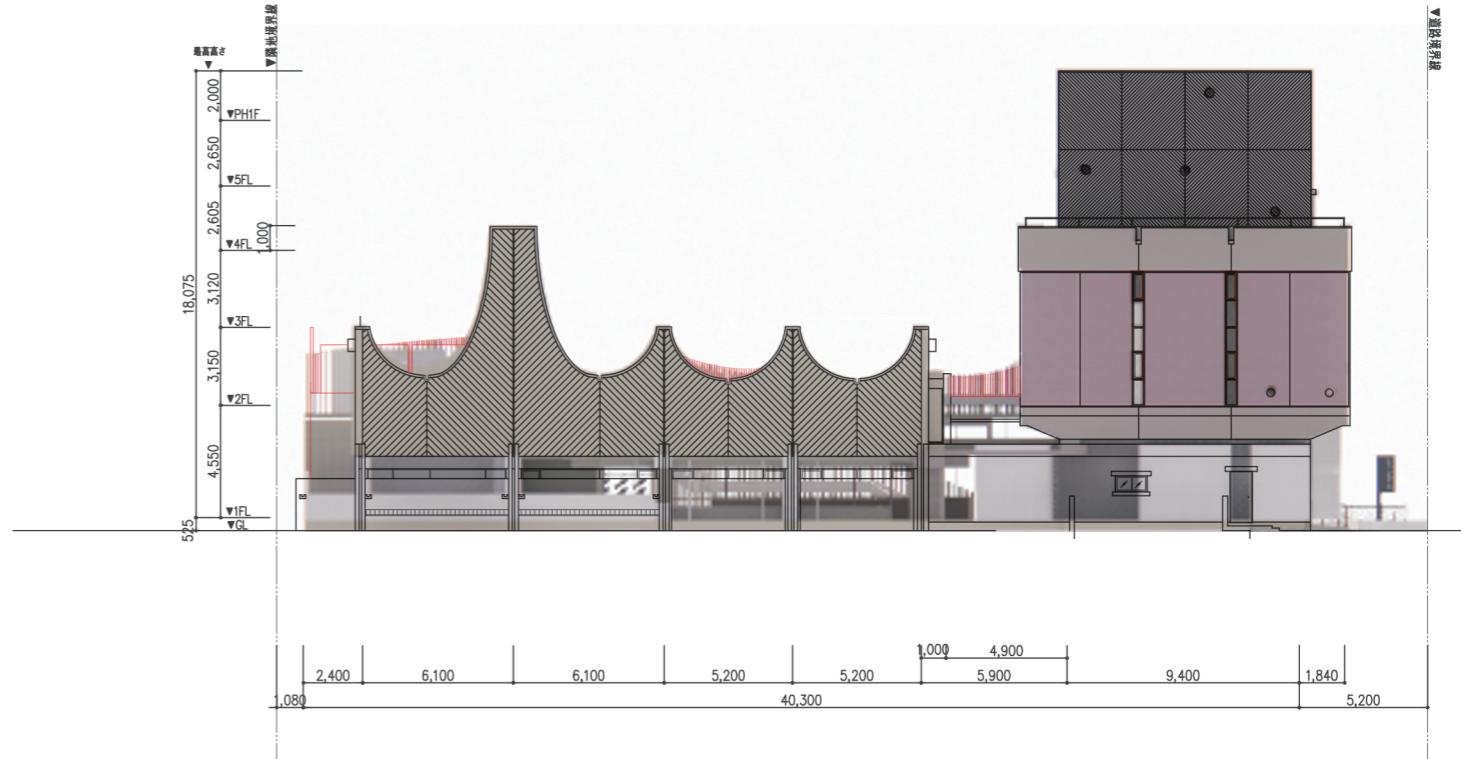
立面図

Scale (A3) = 1/300

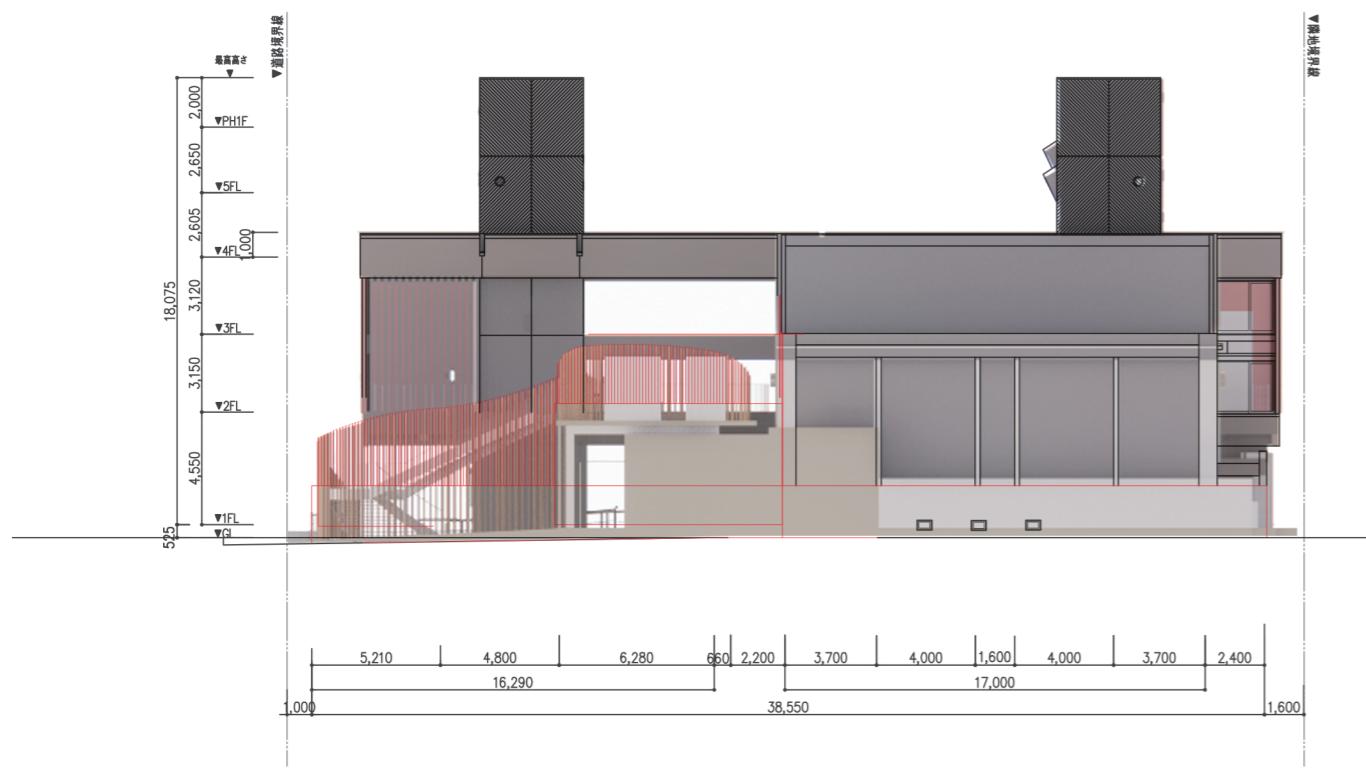
■ 既存部分
■ 増築・改修部分



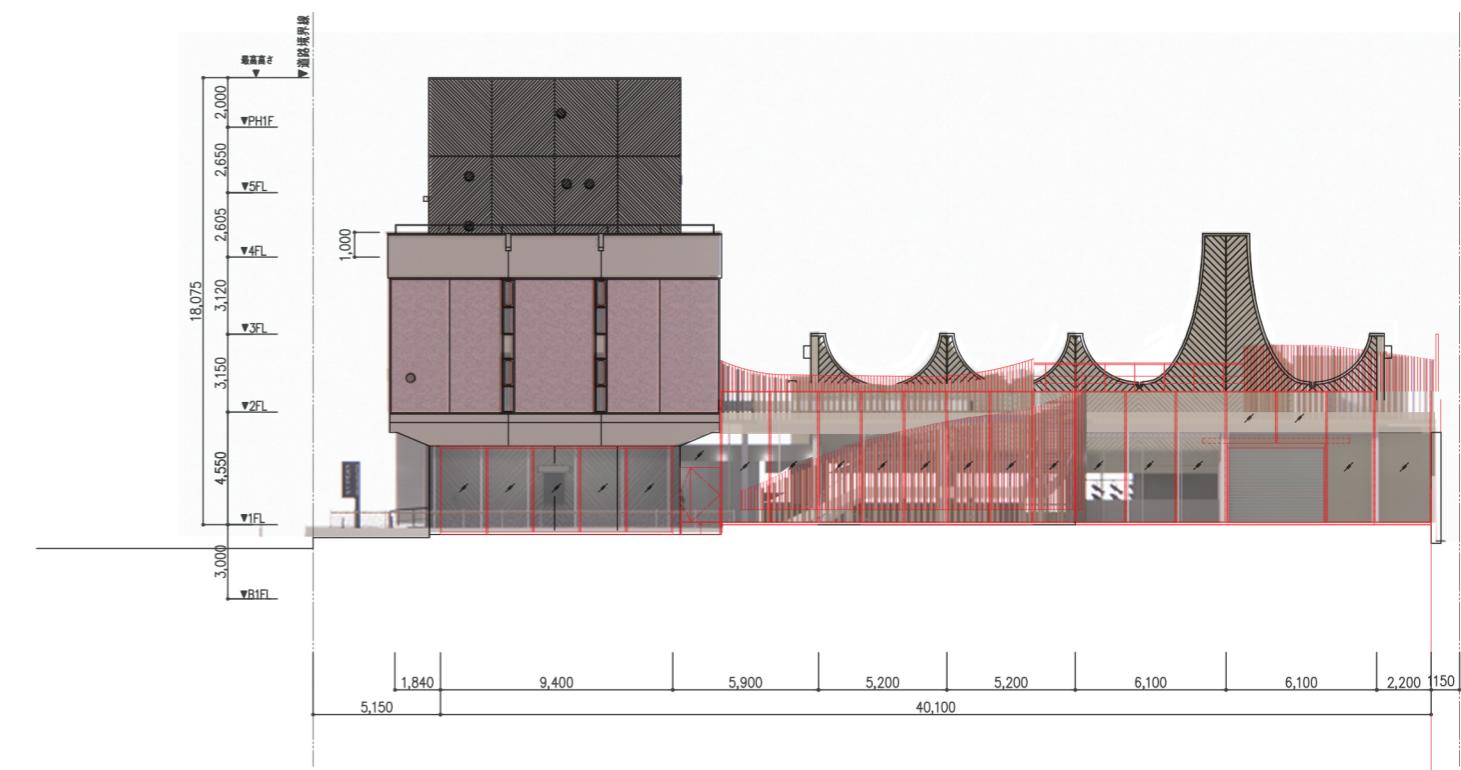
西立面図



北立面図



東立面図

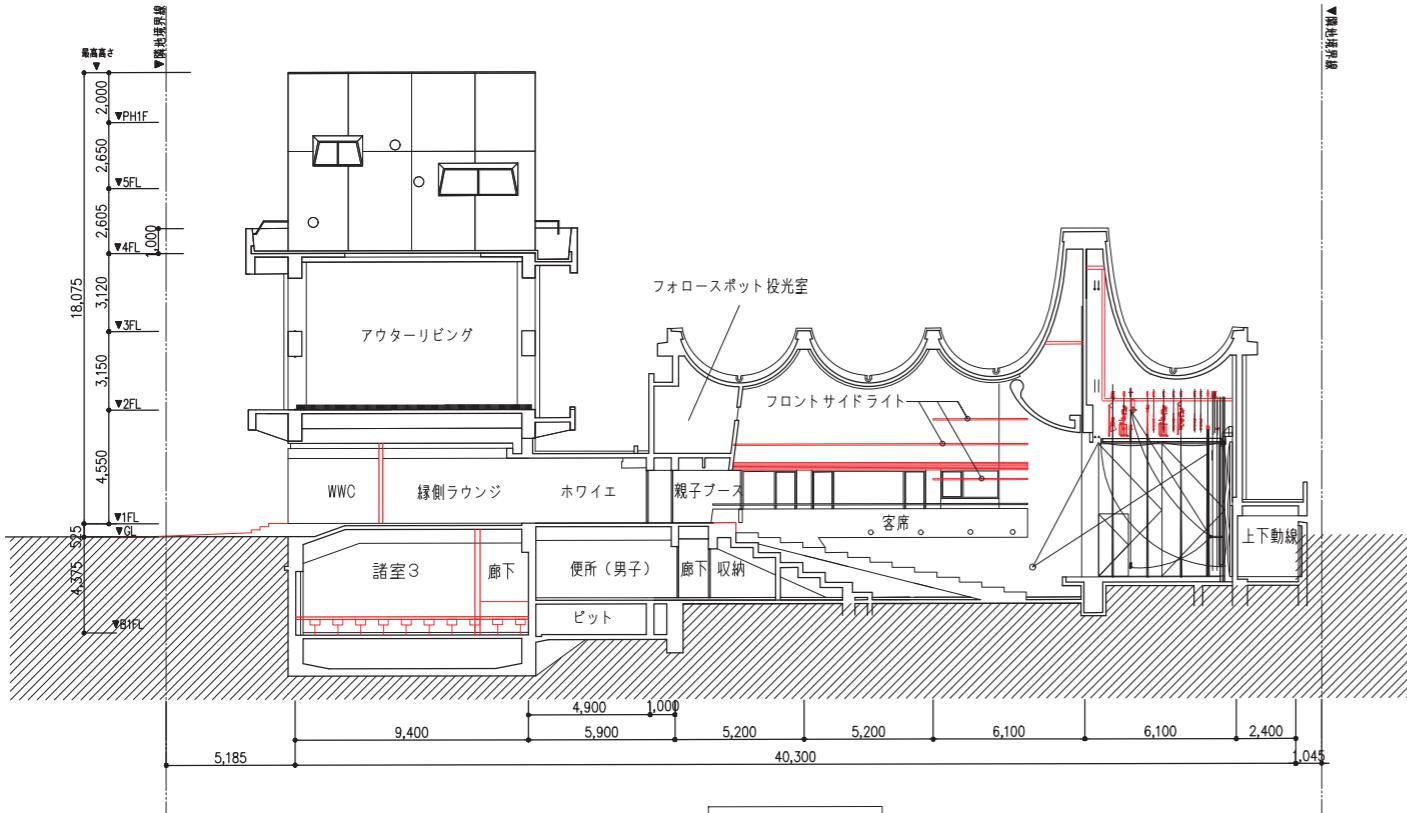


南立面図

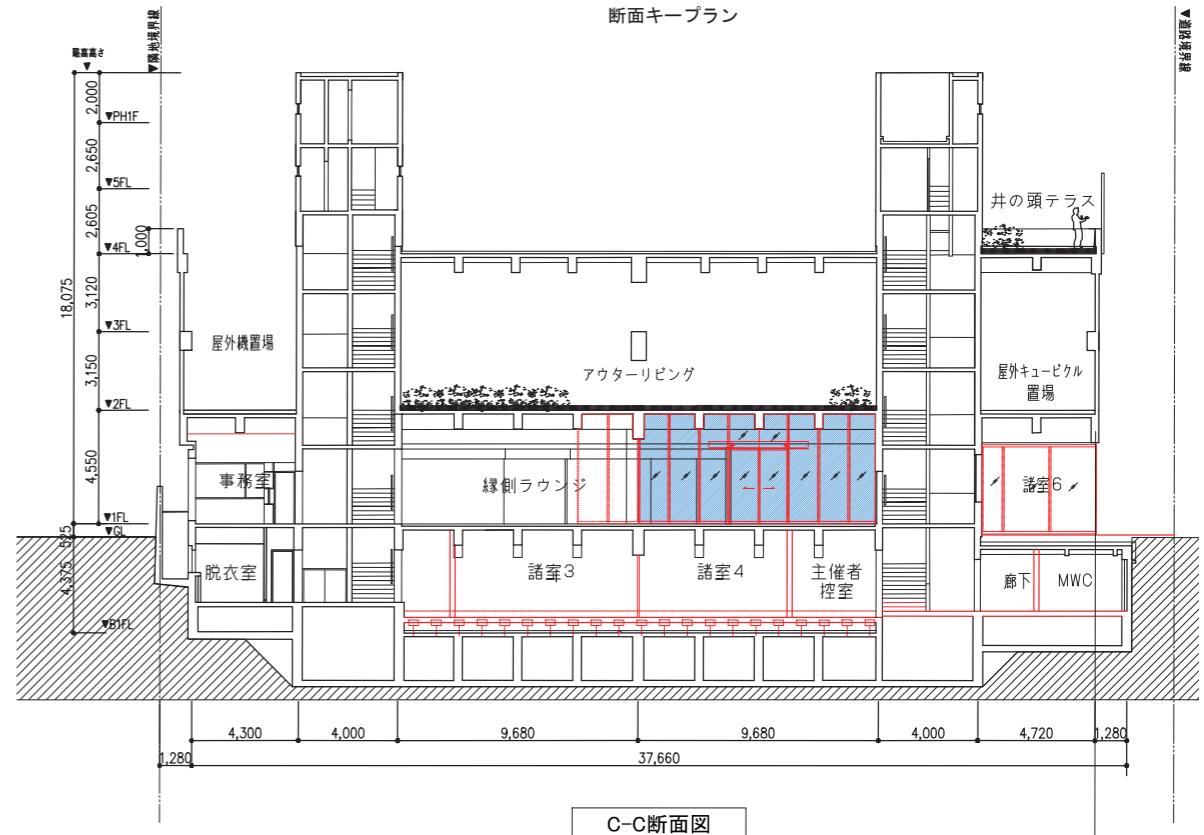
断面図

Scale (A3) = 1/300

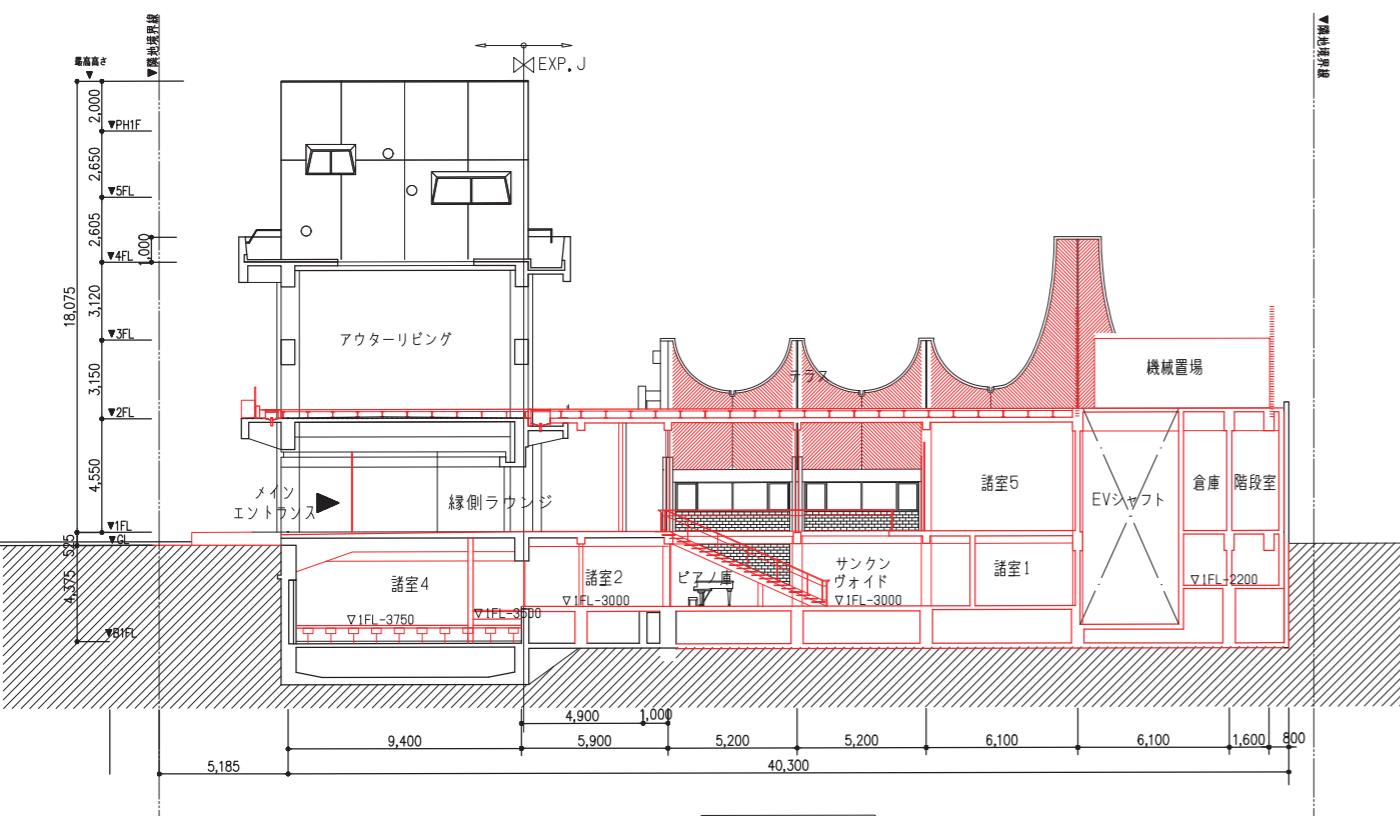
既存部分
増築・改修部分



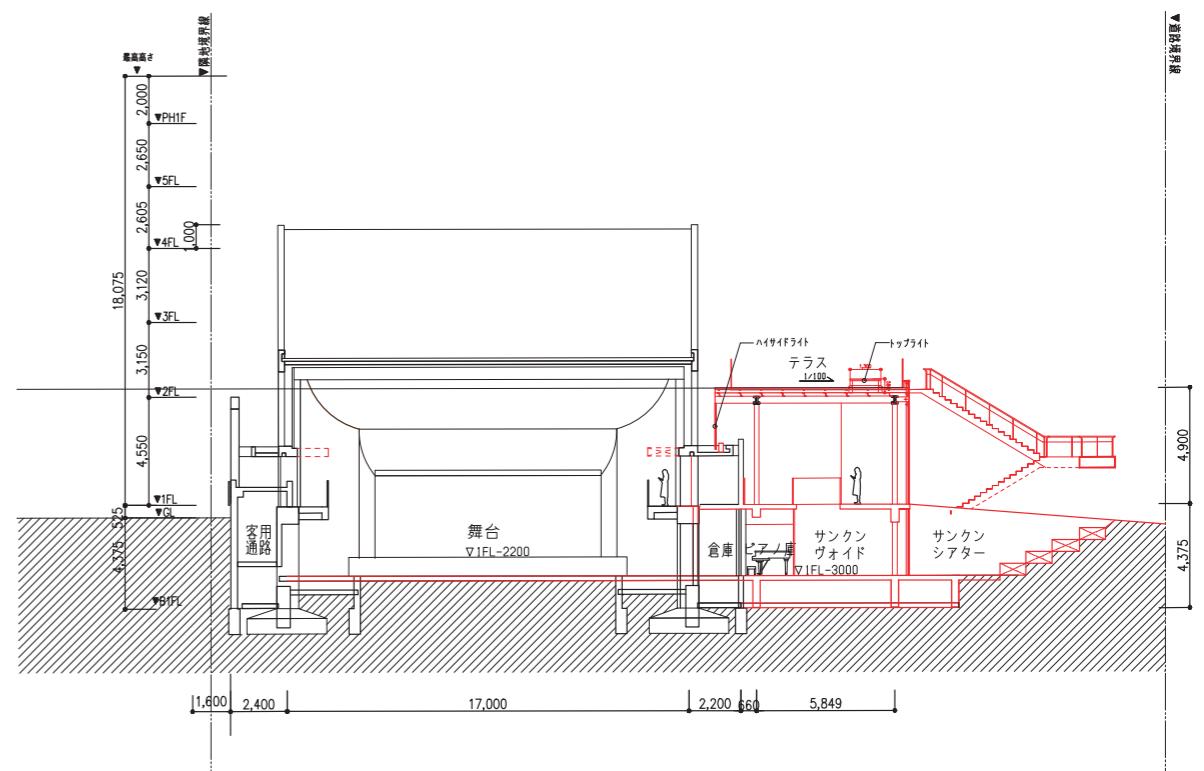
A-A断面図



C-C断面図



B-B断面図



D-D断面図